

たまお探検隊 が行く (パート1)

いにしえの瓜生津・土器

史実に、文明15年(1483)佐々木六角氏、御所へ初瓜3籠献上とあり、この時代朝廷や幕府等に贈り物として、瓜生津一帯の「江州瓜」が高く評価されており、最盛期には30籠～50籠の単位で京都へ運ばれ、都の台所を潤しておりました。

又蒲生野は、有史以前から肥沃な土地であったことが窺われますが、原始時代はわずかな遺品から推考するもので当時この地域の工芸を明らかに出来ませんが、竜王町の須恵や当地区土器町は、土器の製作に因み名付けられたものでしょう。

天智天皇(667～)大津宮の時、百済の移民を受け容れ大陸の工芸が、わが国固有の文化に新知識を与え、現在の土器町界隈では、生活の器から宮廷の齋礼に供するものまで大規模に造られたと思われています。山麓の天満神社は、当時2000坪の工房の傍らに祀られたのが始まりとの説があります。



(土器町 天満神社)